

06 補助金



在宅ケアが常時必要な方を対象にした生涯学習の訪問サービス事業

特定非営利活動法人フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会

活動

学ぶことは生きること ～学びは無量大～

[目的]

医療的ケアを必要とする障害の重い方は、特別支援学校卒業後も心豊かな生活の実現のために「学び」を希求しています。この想いや願いに応える制度はなく、孤立しがちです。

訪問型の学びの機会を創出し、障害の重い方の学ぶ権利(生涯学習の必要性)を地域社会に周知し、「共に学びともに生きる共生社会」の実現に寄与したいと考えています。

[概要]

事業1：在宅ケアが常時必要な方を対象にした生涯学習の訪問サービス

特別支援学校などを卒業後、障害や病気のために通所施設等の毎日の利用が難しい18歳以上の在宅ケアを必要とする方のご自宅を、学習支援員等が月1～4回訪問し、その人らしい豊かな生き方(生涯学習)の支援を行いました。「学びは自己表現(実現)」「教えるから学びあいへ」を合言葉に活動しています。

Check !



<事業基本データ>

事業分野 社会教育の推進

実施期間 2020～2022 年度

補助金額 計 1,846 千円

事業2：生涯学習の訪問サービス事業のインターンシップ

インターンシップ事業として、教員養成大学のゼミの学生が学習支援員と一緒にカレッジ生のお宅を訪問し、同世代が関わる機会を創出しました。

生涯学習の訪問サービス事業とは (訪問カレッジエンジョイかながわ)



成果

大学生の同行訪問により 同年代との関わりの場を提供

カレッジの受講生は当初の2名から、3年間で7市1町、17名(うち2名死去)に増えました。「目標や楽しみがあって、肯定してくれる存在があることは、本人はもちろんのこと、家族にも生活の幅を広げてくれます。」これは、カレッジを受講する家族の声です。

学習支援員は、退職教員を主に現在22名が登録しています。加えて複数の大学の協力も得て、大学生の同行訪問は、7名の学生が参加するなど、広がってきました。同世代との関わりは、両者に良い刺激となっています。また地域連携として、ゲストティチャーを招く活動にも取り組んでいます。

この事業を通して、障害者の生涯学習について関心が高まり制度化へ向かうよう、広報活動にも力を注ぎ、同じ思いを持つ全国の団体「重度障害者・生涯学習ネットワーク」とも連携して活動しています。



担当者の
コメント

理事長
成田 裕子さん

「特別支援学校卒業後も学びたい」の声に、ただ応えたい一心で、基金に応募しました。基金21の採択により、私たちの想いが社会課題として認められたように感じ、励みになりました。

どんな事業にしたいのか、どんなふうに展開するか、経費はどうするかなど相談をしていく中で、事業という箱(形)になりました。この箱から、今、みんなの夢が育っています。



▲ カレッジの様子(視線入力学習)



▲ 大学生の同行訪問の様子



特定非営利活動法人
フュージョンコムかながわ
・県肢体不自由児協会

代表者

理事長 成田 裕子

設立

2009年 3月

住所

〒221-0825
横浜市神奈川区反町 3-17-2
神奈川県社会福祉センター5階

活動紹介

障害の有無に関わらず、すべての人が地域に溶け込み、当たり前のように生活する地域社会を目指し、障害のある方とご家族に寄り添い、障害のある方の社会参加や、地域との連携づくりを応援しています。

07 補助金



病気や障害のある子どものきょうだい児支援事業

特定非営利活動法人スマイルオブキッズ

活動

きょうだい児支援シンポジウム を3年連続で開催

病気や障害のある子どもの兄弟・姉妹は「きょうだい児」と呼ばれています。きょうだい児は、家族の中で病気の子どもが中心になることで、我慢や嫉妬心など複雑な気持ちを抱えたり、障害のある子どもの世話役を担ったりすることもあります。近年、そのような子ども達の心のケアや、当事者同士の交流の場の必要性などが周知されてきています。

当法人では、基金21の継続助成を受けて、きょうだい児支援シンポジウムを3年連続で開催しました。きょうだい児を取り巻く課題や必要な支援について理解を深めることから始まり、支援活動における担い手の発掘やネットワークづくりを経て、活動が公的な補助を受けられるようにすることを目標に議論を重ねてきました。きょうだい児支援団体からの事例報告や、当法人の運営する「リラのいえきょうだい児保育」の紹介も行いました。

コロナ感染拡大防止策として、オンラインを併用し、登壇者と全国の参加者を繋いで開催しました。

Check !



<事業基本データ>

事業分野 保健、医療又は福祉の増進

実施期間 2020～2022 年度

補助金額 計 400 千円



▲ 2020 年度の会場の様子(ハイブリッド開催)

成果

コロナ禍でも、オンラインとのハイブリッドで事業を実施

2020年度は、会場17名、オンライン111名の参加がありました。オンラインに不慣れゆえのトラブルも知見に変え、また、遠方からの参加も可能になったことから、2021年度(141名参加)、2022年度(154名参加)の開催に繋がりました。各地域の病院や団体の取り組み、きょうだい児自身の様々な思いも共有することができました。2022年度の申込者限定のアーカイブ配信では154回の再生があり、多くの方が繋がり学び合う機会となりました。



▲ オンライン配信拠点の様子
(患者・家族滞在施設リラのいえにて)



担当者のコメント

事務局長
谷畑 育子さん

初年度のプレゼン審査の頃から新型コロナウイルスの影響を大きく受けて、対応に追われた3年間でした。当初はオンラインでシンポジウム開催することになるとは思ってもみませんでした。支援の輪が広がる良い機会となりました。基金21の助成があることで、信頼を得て開催することができました。また、ボラフェスを通じて県内の多様な団体と繋がれることも、基金21の大きな魅力だと思います。

参加者アンケートでは、「色々な立場からのサポートの必要性や活動の様子を知ることができた。」「患者本人だけでなく、きょうだい児、親を含めて家族を支援する視点が不可欠と感じた。」などの感想がありました。

継続して開催することで、支援者同士の交流も深まり、参加団体が実施するきょうだい児支援プログラムに当法人の保育士が参加したり、シンポジウム登壇者を行政関係者に紹介するなど、連携して行くことの効果も出始めています。



▲ 配信拠点舞台裏のボランティアの様子

NPO
法人

特定非営利活動法人
スマイルオブキッズ

代表者 理事長 松尾 忠雄

設立 2003年 3月

住所 〒232-0066
横浜市南区六ツ川四丁目 1124-2

活動紹介 神奈川県立こども医療センター近くの、患者・家族滞在施設リラのいえの運営、きょうだい児保育事業などを通して、病気や障害のある子どもとその家族を支援しています。

08 補助金



飼育放棄された老犬・老猫及び傷病犬・傷病猫を 介護するケアハウス運営事業

一般社団法人アニプロ

活動

人の幸せにもつながる 「ペットの命の尊厳を最後まで守りぬく活動」

飼育放棄で神奈川県動物愛護センターに日々持ち込まれる動物たち。体調が急変する高齢、傷病の犬猫、小動物には介護の必要があっても稼働時間の制約がある行政施設ではお世話できません。また、やむを得ない事情があって泣く泣く手放される動物もいます。

当ケアハウスは動物を巻き込む社会問題に向かい、そうした動物たちの受け皿として身柄を引き受けます。すべての子に適正な医療をかけて、人と暮らすうちでの、昼夜問わぬ休み無い介護体制のもとで温かく見守る「終生愛情飼育」を実践。ペット愛護のあるべき姿を啓発しています。

Check !



<事業基本データ>

事業分野 保健、医療又は福祉の増進

実施期間 2020～2022 年度

補助金額 計 2,670 千円

また、この取り組みは実際の現場をより多くの人に広く知ってもらうことが大切と考えます。あらゆる発信機会を活用し、動物と幸せに暮らすための心構えを一貫した内容と姿勢で伝え、人の福祉にもつながる動物福祉への理解と浸透に努めています。



▲神奈川県獣医師会の先生による定期的な往診
(予防接種の様子)

成果

人も動物も幸せである社会にむけた活動の実施

迎えた時には命の危険に及んでいた病状が重篤な犬猫・小動物たちが、適正な医療と手厚いケアにより健康を回復、新しい家族へと譲渡に至る好事例がしばしばあります。動物の立場を最優先した活動姿勢と、動物問題を起こした人々を傷つけない最適解への配慮が、愛護意識の高い人達だけでなく、動物行政の現場関係者からも高い評価と信頼を得ています。多頭飼育崩壊案件や個別の保護相談など、困窮する問題の相談も頻繁に寄せられ、団体としての社会基盤は少しずつ固められています。



▲ 猫たちの部屋の様子



担当者の
コメント

代表理事
原 奈弓さん

基金21に審査が通ったことは大変嬉しかったです。ペットの放棄は実際には高齢で放棄される事がほとんどであり、人と長く暮らしてきたシニアのペットこそ救済が必要だということをより多くの方に知って頂く機会を頂けたと思います。そして活動に信頼が得られたと感じています。基金21に応募して本当に良かったです。

活動成果が知られる都度、ボランティア参加者も着実に増加。メンバーの個性や専門性を生かしたより強い組織へと成長の道を歩み始めました。ケアハウスの活動基盤は「ケアハウス会員」に支えられており、活動成果は会員に還元・共有され、参加する喜びになっています。まだまだ悲慘な動物保護現場から、人も動物も幸せな社会にむけ、変革の意識循環が徐々に回転していると信じています。



▲ 県庁駐車場での譲渡会の様子

一社
法人

一般社団法人
アニプロ

代表者

代表理事 原 奈弓

設立

2018年 10月

住所

足柄下郡真鶴町

活動紹介

「すべての子に適正な医療を」をポリシーに動物福祉の実現を目指しています。また、高齢者によるペットの飼育放棄、多頭飼育崩壊など社会課題の解決にも取り組んでいます。

09 補助金



オンラインを含めて不登校の子供と 保護者の居場所を広げる事業

NPO 法人子どもと共に歩むフリースペースたんぽぽ

活動

不登校の子どもと保護者の サポート

【目的】

不登校の子どもたちと保護者を対象に相談を受けたり、親の会を開いたり、子どもたちが安心・安全に過ごせる居場所を作っています。

【概要】

事業では、不登校の子どもが安心して過ごせる居場所をつくりました。居場所ではゲーム遊びの場をつくり、コロナ禍、遠隔地でもオンラインで参加できる「ゆるっとゲームくらぶ」企画に取り組みました。毎週1回開催し、この遊びを入り口にさまざまなイベントを企画しました。

悩む保護者をサポートするために、親(うてな)の会を開きました。月に1回開催し、小学生の親だけの集まりも持ち、毎回新しい保護者が参加し、悩みの相談・子育て交流会を実施し、保護者が元気になるためのサポートをしました。

Check !



<事業基本データ>

事業分野 子どもの健全育成

実施期間 2022 年度

補助金額 計 983 千円



▲ 親の会の様子

成果

コロナ禍でも、オンラインを使い ゲームでの遊び場を

2022年4月よりゲームを通じた遊びの場(「ゆるっとゲームくらぶ」)を40回開催しました。基金21の補助金で通信機器やソフトの購入、子どもたちが集まる居場所の確保、担ってくれる不登校を経験したボランティアスタッフを7人確保しました。子どもは年間延べ357人が参加しました。このゲームくらぶでの遊びを入り口に、月1回のイベント(ハロウィン、カレンダーづくり、平塚美術館見学、ボウリング、工作教室等)を年間8回実施しました。

親の会(うてな会)は年16回開催し、基金21の補助金を使って、心理カウンセラー内田良子さんの子育て講演会を開催し、25人の参加がありました。



担当者の
コメント

理事
一之瀬 百樹さん

ゲームを使った不登校の子どもの居場所づくり(「ゆるっとゲームくらぶ」)は試行錯誤の連続でしたが、基金21の補助金をいただき、軌道に乗ったのは良かったです。



▲ 野外活動(アスレチック)の様子



▲ 大きな絵を描くワークショップの様子



NPO 法人
子どもと共に歩むフリースペース
たんぽぽ

代 表 者 理事長 青島 美千代

設 立 2008 年 5月

住 所 〒230-0061
横浜市鶴見区佃野町 1-7
深谷ビル 202

活動紹介 不登校の子どもが安全・安心して過ごせる居場所です。週4日開所しています。子育てに悩む保護者の相談も受付け、親(うてな)の会も月に1回開催しています。ゲームで友達を作りたいと思う子は連絡して下さい。